

ビジネスアイディアの概要

医療は高度化と細分化が進み、医師1人が担える専門領域には限界がある。医師調査では85%が専門外診療に判断の難しさを感じ、約70%は生成AIの専門外の出力の妥当性を判断できないと回答している。臨床の意思決定を支援するインフラが欠如していることが問題である。我々は、医師向けAIと専門医ネットワークを統合したチャットシステムを構築し、現場の医師をAIと専門医の連携で支える体制を提供する。すでに医師間チャットと要約AIを実装し、20施設・40名以上の医師で試験運用を行い、96%の症例が遠隔支援のみで対応を実施した。医師の能力を最大化し、日本の質の高い医療を世界に展開可能な医療インフラへと転換する。

ビジネスアイディアを事業化するための課題

・初期のユーザーの獲得と継続利用

医師ユーザーを増やし、医師疑問などの行動記録の解析から、示唆を出すことで企業からのマネタイズが一つの軸である。そのために、1000人を目標にユーザーを獲得し、高い頻度で活用いただける環境を構築する必要がある。そのため、日本各地の医局やグループ病院に等にアプリケーションをご提供するとを目指す。

・本ビジネスモデルによるマネタイズの立証

米国のOpenEvidenceのビジネスモデルを参考に、臨床の行動データの活用による企業からのマネタイズと、病院・自治体からのマネタイズを両輪で進める方針としている。まず、初手我々のアプリケーションで上記マネタイズが実現すること立証する必要があり、ユーザー数の獲得を行いつつ、インサイト抽出を継続する。

事業化の見通し

・徹底したユーザー数の獲得と、医療機関でのマネタイズが当面の目標である。遠隔チャットコンサルテーションを実施する体制は確立しており、医師向けAIを実装し、来年度により広いユーザーに活用いただけるよう営業を推進する。

・また、継続的な利用を推進するために、アプリケーションの使いやすさを追求する必要がある。来年度の広いユーザー獲得に向けた営業の前に、一貫したUIとアクセスのしやすさを、アプリケーションに実装する必要がある。

事業者情報

株式会社ドクターズサミット
澤野晋之介



Doctors Summit

ビジネスアイディア概要図等

診療支援を起点に臨床判断データを集積し、
医療インサイトで収益化する

